

大学の授業と大学の事業の連携による学生資質の向上

著者	大城 亜水, 山下 敦子, 中田 康夫, 高松 邦彦, 中西 利恵
雑誌名	神戸常盤大学紀要. 別冊
号	16
ページ	29-29
発行年	2023-03-31
URL	http://id.nii.ac.jp/1492/00001192/

2-P-25

大学の授業と大学の事業の連携による学生資質の向上

大城 亜水¹⁾山下 敦子¹⁾ 中田 康夫²⁾ 高松 邦彦³⁾ 中西 利恵¹⁾

本研究は、教員・保育者養成課程における職業意識定着と動機づけに結びつける教育方法の開発として「早期体験実習プログラム」の構築を検討し、その教育的効能や効果を検証することを目的とする。プログラムの検討にあたっては、医療・看護・保健分野ですでに取り組まれている「早期体験実習（アーリーエクスポージャー）」を参考に、教育・保育分野における早期体験実習を導入したプログラムを開発し、実践を試み、本学の子育て総合支援施設のあり方を提言することも視野に入れた研究である。なお、本学科は小学校教員を目指す教員養成コースと、保育士、幼稚園教諭、施設職員を目指す保育者養成コースに分かれているため、プログラムはコース別に編成している。

本報告は、教育学部こども教育学科1年生に実施する小学校、保育所、幼稚園、社会福祉施設の観察実習に加え、本学科独自のKITプログラムを合わせた早期体験実習の実施前後で行う意識調査の分析結果から得た教育的効能や効果について報告する。

分析結果としては、実習前は子どもや保護者との関わりに不安を抱く学生が大半であったが、実習後の意識調査をみると、その不安はかなり改善された結果となった。さらに、実習後のふりかえりレポートをみても、実習を通して子どもや保護者との関わりに加え、施設職員との関わりに自信が付き、将来の教育者・保育者像や職業意識を具体的にイメージした感想が多かった。

1) 教育学部こども教育学科 2) 保健科学部看護学科 3) 東京工業大学